

農業体験活動における注意点・支援の重点・ねらい

令和2年版 ～スタッフ・ボランティア用～

農作業体験を円滑に進めるため、下記に示す注意点や支援の重点を確認し、安全かつ、子供たちの体験活動の充実を図れるよう内容確認をお願いいたします。

また、作業内容により、本マニュアルに記載のない項目等も出てくることもあります。作業内容に関しては、必ず、代表者または、農業指導員からの詳細説明後に行いますが、専門的な言葉や、子供たちの理解が及んでない場面などがあつた場合は、支援スタッフまたはボランティアスタッフの方が、代替えの質問をするなどし、子供たちが理解できたうえで活動を行えるようサポートをお願いいたします。

■年間スケジュールとねらい・支援のポイント ■小児→(3～6歳) 児童→(小学生)

時期	対象者	実施内容	ねらい・支援のポイント
4月	小児	農作業の基礎体験	農作業を楽しめる雰囲気づくりを目指す。
	児童	(耕運・畝立て・取扱指導)	基本作業の理解と農作業の意義を理解してもらう。
5月	小児	基本農作業	親子でともに経験したという実績を残す。
	児童	(植え付け・田植え)	農作業の基礎と反復活動による慣れ、経験を積む。
6月	小児	基本農作業・料理教室	体験と感想から子供たちの感受性を引き出す。
	児童	(植え付け・播種)	経験回数を増やし、個々のステップアップを目指す。
7月	小児	基本農作業	大変な作業も親子で楽しめるような支援を行う。
	児童	(除草・管理作業)	辛さや難しさも体験・経験する。
8月	小児	農作業・収穫体験・料理教室	親子で収穫体験し農業の楽しさを感じてもらう。
	児童	(除草・管理作業)	自分たちの取り組みが結果になる過程を感じてもらう。
9月	小児	基本農作業・収穫体験	経験回数を増やし、土や農作業に慣れてもらう。
	児童	(植え付け・管理作業)	応用作業へのステップアップを図る。
10月	小児	応用農作業・収穫体験	高度な作業にも取り組んでみる。
	児童	(ハウス育苗)	1つ上の応用作業を学び以降に繋げる。
11月	小児	収穫体験・次年度準備作業	親子でともに体験した中から思い出作りへと移行させる。
	児童	(畑管理・堆肥づくり)	収穫の喜びや今までの努力を分かち合い、発表していく。
12月	◆令和2年度は、11月をもって活動を終了する形で進めます。		
1月	(理由)→12月に入ると気温の関係で、子どもたちの体調に悪影響を及ぼす可能性が大きいと判断しました。活動自体は、11月いっぱい終了しますが、スタッフ・ボランティアの都合が付き、室内施設		
2月	の予約が取れる場合は、状況を見ながら食育イベント、環境教育講座等を実施予定です。		
3月	その際の注意点、配慮点については、参加スタッフへ都度お伝えいたします。		

1、農作業体験にあたって

農作業を実施するにあたり、服装や準備物の確認をお願いします。基本的な服装は、つなぎ服や長袖等とし、虫刺されや日焼け等を予防します。また、必ず、帽子の着用を確認し、熱中症等の予防に努めます。参加者には、他に、タオル・長靴・水分補給用の飲み物等を持参してもらい、活動前に、準備物がすべて揃っているか確認したうえで作業へ入ります。

活動時には、水分補給用の飲み物を忘れた家族用に予備を用意していますので、担当の子どもたちに忘れ物が発生している場合は、団体スタッフまで教えてください。

また、適時子供たちの様子を確認し、暑さ・寒さの状態を確認するとともに、状態に異常を感じた際は、本人への声がけと、団体スタッフへの報告をお願いいたします。

子供の体調不良に関しては、基本的に保護者さんへ対応していただきますが、緊急性が高い場合や、大きなけがなどの際には、救急車等の要請をします。他の家族への動揺が内容、体調不良者と参加者の活動・休憩場所を離すなどの適切な対応をお願いいたします。

2、農作業体験の事前準備等に関する項目

種まきや植え付け前に、必ず、『事前準備』が必要となります。子供たちの作業体験による学びの力を向上させるため、事前準備の段階から作業に関われるよう活動を進めています。

各作業における注意点配慮点は以下の通りです。

①除草・ゴミの片付け

畑の事前準備をする前に、対象圃場の除草、ごみの片付け等が発生します。なぜ、除草やごみ拾いが必要なのか？除草・ゴミ拾いをしないとどうなるのか？など、子供たちに考えてもらうとともに、効率の良い除草方法などを体験してもらいます。

＝ポイント＝

- ・除草した雑草等は指定箇所に集め、以後堆肥として利用していきます。
- ・除草の際、鎌や専用の器具を使う場合は、必ず使用方法や適切な取り扱いを事前に説明したうえで使うようにします。
- ・ゴミは、仙台市のごみ処理基準に従い、“燃えるゴミ”“プラスチック類”に分類します。
- ・除草やごみ拾い等は、子供たちの作業意識が上がりにくいいため、適時、声がけや活動の意義を説明し、モチベーションを高めるよう配慮願います。

②耕運・薬剤散布

除草、ごみ拾いが終わった後は、耕運作業と、薬剤等の散布作業が発生します。農作業の基本である耕運作業の意義や必要性を子供たちが理解し、また、正しい作業内容や器具・薬剤の取り扱いを説明の上活動を進めます。

＝ポイント＝

- ・耕運作業では、『鍬』を基本に使います。鍬の使い方や効率的な利用方法を伝え、実践をもとにした

学びの時間となるよう支援をお願いします。(初回は手元がおぼつかない場合や、使い方の誤りがあると予想されますが、一度子供たちに体験いただいた後、正しい使い方や効率的な使用方法を伝え、子供たちのモチベーションの維持と、体験による学びを確保します。)

- ・道具類の使用に関しては、講師や指導員の号令があるまで、子供たちが触れられない場所に準備し、使用にあたっては、周囲の十分な安全性、空間の確保をしてから使用するようお願いいたします。また、子供たちが使用する際は、必ず保護者または、スタッフとともに作業できる環境を整えます。危険行為に関しては厳しく注意するとともに、見守る子供たちにも、自分の番になった際どのように取り扱うのがいいのかを考えてもらえるような声かけをお願いいたします。
- ・耕運時に『石灰』等の薬剤を散布する場合があります。危険性の少ない薬剤に関しては、子供たちに作業してもらおう場面もあります。その際は、担当する子供に、必ず、保護者またはスタッフが付き添うとともに、指導者の指示に従った作業内容になるよう支援をお願いいたします。

③畝だて・マルチング

耕運作業終了後は、植え付ける野菜に適した『畝』作りの作業となります。作業の意味・意図を子供たちに説明するとともに、畝が何のために存在するのか？や、ない場合どのような不都合が起きるのか？などを説明しながら進めます。また、子供たちに考える時間を十分に与え、参加した子供たちが納得したうえで作業が進行するよう努めます。

＝ポイント＝

- ・畝立ては、専用の機械を利用します。専用の機械は危険性もあるため、基本的に子供たちは見学での学びとなるように進めていきます。高学年の子供で、講師・農業指導員が作業可能の判断した子供には実際体験してもらいますが、小さな子供たちには、“危険なので近づかない”旨の声がけと、見学時にポイントや作業内容の声がけにて学習効果を高めていきます。
- ・マルチング作業では、子供たちに作業してもらいます。留め方や土のかけ方、しわやたるみを作らないためのポイントを伝えるとともに、適切な張り方と、失敗時の張り方などをあえて見せることにより、より、学習効果が高まるよう配慮します。

3、種まき・植え付け等の作業に関して

種まきや植え付け等は、子供たちが一番楽しみ、喜ぶ作業です。しかし、一方で子供たちが興奮しやすく、先行的な作業や不適切な取り扱いが起きやすい作業でもあります。

必ず、指導者の話を聞いてもらえるような声かけや、先行がちになっている子供たちへ適時声かけし、正しい・適切な取り扱いができるようは支援願います。また、幼児は『誤食』等の危険性もあるため、種・苗を渡す場面では、親御さんが付き添ってきちんと子供たちを把握しているかを確認するとともに、危険な場面では、厳しく注意する等して、子供たちの安全を確保してください。

＝ポイント＝

- ・種、苗には、購入時点で薬剤が散布、コーティングされているものがあります。手袋や軍手等を利用し、素手で触らないよう注意喚起するとともに、誤食などが起きないように見守りをお願いします。
- ・種に関しては、とても細かなものがあるため、子供たちが作業しづらい場合は、一度保護者に渡し、

1 つずつ子供へ配って作業してもらおう等の声かけをお願いします。

- ・ 苗に関しては、慎重な取り扱いが求められるため、粗暴な扱いが起きないように事前の声かけをするとともに、作業場面においても、丁寧な取り扱いになるような声掛けをお願いします。
- ・ 植え付け方法や、作業内容に関しては、作物ごとに注意点が異なります。都度、農業指導員から正しい作業法の提示がありますが、作業内容を理解できていない子供や間違っている場合は、本人にその旨を伝え、どこの部分が違っているのか？を考えてもらいながら、正しい作業へなるように促しをお願いいたします。

4、収穫作業に関して

収穫体験は、農作業体験の“喜び”を感じることでできる子供が楽しみにし、次年度意欲へとつながる瞬間です。今までの作業体験が結果に結びついていることを伝えたり、除草や耕運といった大変な作業が結果につながることを伝え、楽しさを共有出来るよう支援願います。

また、収穫体験に関しては、気候や中途管理などにより収量や出来が変わってきます。極端に終了が少ないものや失敗したものに関しては、“なぜそうなったのか？”を考える機会とし、また、“次年度以降はどのようにした良いのか？”などの対策を子供たちが考え、実践していけるような声かけ支援をお願いします。収穫物の出来は、『自然』と密接にかかわっていることや、『中途管理』の大切さを理解し、以降の活動に繋げることによって、子供たちの学びと意欲の継続に繋げていきたいと思ひます。

=ポイント=

- ・ 収穫物を傷つけないよう丁寧な取り扱いに注意し、収穫の仕方を教えてから作業するように進めてください。
- ・ 収穫したものは、個人用・団体使用分・共有で分ける用にするため取り扱いや保管の工程を理解したうえで作業が進むよう声かけをお願いします。
- ・ 形の悪いものや出来の悪いものは、“どうしてそうなったのか？”と考えられる時間や機会を作るようにしてください。
- ・ 農業指導員が作ったプロの農作物と比較するなどの時間を設け、『熟練の技』を感じ、さらに良いものを作りたい!という子供の気持ちを引き出せるように支援願います。
- ・ 親子がともに作業に取り組み、ともに思い出を作れるような配慮をお願いいたします。